

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200078		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	上川郡下川町錦町305番地		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設3年目を迎える道北の小さな町のグループホームです。認知症になってもいつまでもふるさとに住み続けたいとの思いを汲みつつ、季節感を感じられるように地元野菜が食卓に並ぶよう、地元のスーパーを利用し、工夫しています。冬季間は気温も低く(最低気温氷点下28度を記録する事もある)散歩もままなりません、春の訪れと共に戸外に出て散歩を楽しみます。去年は畑を作り、秋にはジャガイモ掘りも出来ました。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域交流会を開催し、家族や地元の人々、警察官や地域の役員、利用者・管理者・職員等が参加して焼肉パーティーを行い、地域との交流や事業所の役割について理解を得る取り組みをしている。また、地元の敬老会や新年会等の行事参加を通じて地域との連携・交流、認知症についての理解や広報に努めていたり、利用者と職員が一緒になって掃除や雪はね等役割ごとや馴染みの美容室への送迎支援をして、本人本位の支援に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時々理念に基づいて実践しているか振り返り行動している職員もいる。常に心掛け努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、全体会議を通じて理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	収穫期には近所から野菜のおすそ分けがある。冬場は雪はねなど手伝ってくれる時もある。「頂きものだけでもみんなで食べて下さい」等と持ってきて頂いています。	地域交流会を開催し、家族や地元の人々、警察官や地域の役員、利用者・管理者・職員等が参加して焼肉パーティーを行い、地域との交流や事業所の役割について理解を得る取り組みをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献しているかは実感がないが、年数を重ね、実践出来るようにしたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果等を報告している。又、町内の公区長さんには出席をしていただき、協力等いただいている。サービス内容・近況報告もしている。	運営推進会議は、町担当者や地域住民、町内会役員等が参加し、火災避難訓練など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後は、運営推進会議を年6回を目安に定期的開催していくことを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回のケア会議には管理者が出席し、利用者の近況、空き状況、待機者情報等を共有している。又、下川町内の福祉環境等も把握している。	町担当者とは、ケア会議や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も含め動作の制限等身体拘束はしていない。昨年度は研修の機会を逃し、参加できなかったため、今年は受講できるよう配慮したい。月に1回の全体会議の場で研修の場を設けてゆきます。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、毎月の全体会議の中で話し合い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、身体虐待のみならず言葉の虐待等発生しないよう、注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を必要とする利用者がいないが、今後それについて勉強会を開きたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の対応は管理者がご家族にに対し内容を説明している。又、利用者からの質問にも本人の分かるように説明し納得していただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設け、反映している。設置後1回投書があり対応しています。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように投書箱を設置し、その機会を設けている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議は月1度開いており、いろいろな意見が出ております。管理者からの提案も話し合っています。	毎月開催の全体会議等で職員の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設後1回しか個人面談は行っていないが、多理事とも協力してもらい、給与水準は他職種と比べると低いように思われるが給与以外の環境は満足と答える職員もいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会がある時は参加できるように配慮している。その内容は会議の場で報告している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年も指導を受け機会があったら他の施設を訪問したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し安心できるように又、信頼関係が築けるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には御家族が困っている事、心配なこと、希望等を聴く機会を作り、話し合いをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時になのをしてほしいのか、どうしたいのか、理解できるように努めている。それに沿うような外部からのサービスがあれば取り入れる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る事、手伝えることは本人と話し合いながら行っている。一緒に遊び楽しんでいると思う。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ面会に来て頂けるように配慮し、努力をしていただいている。面会に来られた時は自室で一緒に過ごして頂いたり他入居者と共に過ごして頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、お友達が訪ねて遊びに来られるので、再度来て頂けるよう声をかけています。	友人・知人との関係が途切れないよう来訪しやすい環境作りや馴染みの美容室への送迎支援で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒に出来るゲームなどで関われるように配慮している。相性なども配慮し席替え等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所後、1名の退所者がいたが会った時には経過を聞いたり又必要な書類等の協力はしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添えるよう努めている。本人で分からないような事はご家族に聞くようにしている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握にセンター方式を導入し、本人の生活歴や趣味趣向等把握するよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の意向を聞き添えるように検討し、努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。本人の体調などにも配慮している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、意見は反映していると思うが職員一人一人考えている事、もっと楽しく暮らせる努力をしていきたい。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や希望、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映できるように努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録を記入している。毎朝、夕のミーティングで情報は伝えている。これからは気づき、工夫等にも反映していきたい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応等はほとんどホームで対応している。又必要に応じて町外の受診にも対応している。対応出来る限り柔軟に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の状態を把握しながら町民敬老会等に出席している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所から既存のかかりつけ医を継続し受診している。入退院の時でも情報交換等行っています。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、看護師と医師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4回定期的に看護師が健康管理している。必要な時は介護職員へ指示があり、受診時の助言等もある。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換は行っている。又普段でも顔を合わせた時でも気軽に声をかけ、かけられている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをした利用者はいないが、重度化に至った場合はご家族と話し合いの機会を作り、通院など協力して頂いた。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は応急手当や初期対応は出来ていないので学ぶ機会を作る。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練は行っており(夜間想定)近隣住人との連携も出来ていると思われる。	消防署の協力を得ながら夜間を想定した年2回の火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備が完備され、定期点検も実施している。	今後は、救急救命訓練の実施や地域の人達との協力体制構築を進めていく計画があるので、その実践に期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに関してはその対応がすべて出来ていないところもあり、気をつけたい。人格の尊重を損ねないように気を付けている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けにならないように配慮し、選択して頂くよう自己決定しやすい言葉をかけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが出来る限り希望に添えるよう努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で意思表示できる利用者はその希望に添い美容院などの送迎をしている。又は訪問して頂いています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり好みが違うが出来る限り添えるようにしている。好きなものを聞き調理したり、たまに出前もある。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理の準備や盛り付け、食事を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の量はチェックしている。毎月体重を計り又、必要な利用者にはとろみを付け配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔清掃の声をかけ介助が必要な方は介助しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツ使用、又はポータブルトイレ利用者もチェックシートを見ながら昼間はトイレ誘導している。夜間のオムツ利用者に対しては尿量に応じパットを替え使用している。夜間パット交換もしている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事の提供を心掛けている。必要に応じ下剤を使用する事もあるが、便が柔らかくなる消化剤等も処方して頂いている。チェックシートを利用し看護師とも相談し指示をもらっている。イスに座って出来る体操はしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は基本決まっているが、体調を見ながら本人の希望に添うようにしている。風呂嫌いの利用者にも入っていただけるよう安全に配慮している。	拒否の強い本人にも一人ひとりにより沿った支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は使い慣れたものを清潔を心がけ、安眠できるように明るさ、音など配慮している。本人の希望を取り入れ湯たんぽを使用している人が4名いるが低温火傷にならない様気を付けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師との連携しながら支援している。お薬の説明等は個人ファイルにとじている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体を動かして好きな事を(ゲートボールなど)出来なくなった方も希望等を聞きしたい事してもらっています。又好きなおやつ等を提供している。タバコを吸う方は場所を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季間は外出する機会はないが、温かい季節になると散歩を心掛けている。家族と共に外出することもたまにある。	畑での野菜の収穫や散歩、外気浴や地域の敬老会などの行事参加で戸外に出かけられるよう支援している。また、地域交流会を開催して、焼肉パーティーで地元の人々との交流や馴染みの美容室への送迎支援等を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持っていない方もいる。持っている人は自分で受診費用、美容院代など自分で管理している。足りないものがあれば職員と一緒に出かける。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来たときは職員が代読している。(たまに)希望があれば電話をかけるよう支援出来ている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が混乱するような刺激などないと思う。季節の物、本人の写真、ぬりえなどさりげなく飾っている。又、清潔に心がけている。	共用空間では、椅子やソファが配置され、一人になったり談笑ができるスペースが確保されて本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室と行き来しており本を読んだり、テレビ(ビデオ)を見たり折り紙をしたり自由に過ごせていると思う。コミュニケーションが苦手な一人の場合は職員が寄り添えるよう努力している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族が本人と居室を作り好みのもの等置いている方もいる。布団等は使い慣れたものを用意して頂いています。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手摺等を利用して移動できるように設置している。出来る事は出来るだけしていただく。段差も少なくしている。		

目標達成計画

事業所名:グループホーム ふるさと

作成日:平成 25年 3月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13 34	職員の段階に応じた教育訓練	・実技を伴う救急救命訓練の定期的実施 ・内部研修会の実施	・外部研修会参加の機会の確保 ・外部講師を招聘した内部研修会の実施 ・消防署の協力を得た救急救命訓練の実施	12ヶ月
2	12	就業環境の整備	いきいきして働きやすい環境づくり	・ケア会議で意見や要望等の把握 ・自己評価の実施	12ヶ月
3	13	地域の人々も参加する火災避難訓練の実施	緊急時に速やかに退避できるような訓練の実施	・地域の人々の協力を得て二次避難場所の確保 ・近隣住民へ知らせる非常ベルの設置	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。